開人会通信

Vol.40 ／ 2018 年 2 月発行

プランニング開
仙台市青葉区北山 1-5-22　TEL/FAX022-276-8840
URL　http://p-kai.com
e-mail　kai2@alpha.ocn.ne.jp

絶好のスキー日和！

2018 年 1 月 4 日（木）～ 6 日（土）

アトリエ自遊楽校　スキーキャンプ

山形蔵王温泉スキー場

スキー初挑戦！

今年のスキーキャンプは、参加人数が過去最多！スタッフを含め**98名**で、**山形蔵王温泉スキー場**に行きました。

今回は**スキー初挑戦の子どもたちが20名**いましたが、転んでも痛くないフカフカの新雪に、楽しみながらどんどん挑戦！あっという間に上達し、年長さんも含め、見事**全員がリフトに乗って滑れるようになりました。**

アトリエのスキーキャンプは一味違う！**上達のコツは楽しむこと。**遊びながら楽しんでいるうちに基礎が身に付きます。ほめられると次第に自信がついて、できる喜びを味わい、好奇心が生まれ、みるみるうちに上達していきます。

恒例の**ゲーム大会**は、今年も大白熱。グループの仲間を応援する声が会場に響きます。

スタンツ大会は例年以上にどのグループもレベルが高く、審査員も頭を悩ませていました。優勝チームの6年生えいたリーダーの男泣きに、子どもから大人までもらい泣き。子ども時代にこれだけ本気で物事に打ち込む体験って、なかなかないですよね。

アトリエ卒業生の**学生スタッフ**たちは子どもたちみんなの**憧れの的**。卒業してしまうみんなも、いつか学生スタッフとして帰ってきてくれる日を待っています！

みんなで食べるご飯は最高！

大白熱のゲーム大会

あべ弘士さん行きつけの三四郎で大宴会！

アザラシと記念撮影

日本一の旭山動物園。あべ弘士さんのガイドつき！

16年間ありがとうございました！

2017年12月27日（水）～30日（土）

あそびじゅつ in 北海道 ファイナル

旭川・キロロ・小樽

16年の歴史に幕を下ろす、**あそびじゅつin北海道**。今回は、宮崎、福岡、兵庫、大阪、滋賀、三重、愛知、神奈川、静岡、埼玉、東京、宮城など、全国各地から**46名**の参加者が集まりました。

爆弾低気圧の影響が心配されましたが、無事全員集合できてひと安心。まずは、絵本作家・**あべ弘士**さん、子どもの本専門店メリーゴーランド店主・**増田喜昭**さん、**新田どん**による**特別トークショー**！**「夢をかなえる」**をテーマに、3人の子ども時代の写真を交えつつ、面白エピソードを伺いました。

夜は、あべさん行きつけの**三四郎**で大宴会！思い出話に花が咲きました。

2日目は日本一の動物園、**旭山動物園**へ！**50周年**を迎え、例年以上の賑わいでした。特別ガイドはあべ弘士さん。実際にここで25年間も飼育係をしていたあべさんにガイドしてもらえるなんて、贅沢～！園内にも、あべさん作の絵や看板がたくさんありました。

3日目は、北海道でもトップクラスの雪質を誇るスキー場、**キロロスノーワールド**へ！雪をあまり見たことがない西日本の子どもたちは大はしゃぎ！スキーに、雪遊びに、北海道の大自然を満喫しました。温泉組は、小樽の近くの自然に囲まれた**朝里川温泉**へ。の～んびり1年の疲れを癒しました。

夜はお待ちかねの**スタンツ大会**。旅の思い出を織り込んだ劇に、大人も子どもも大爆笑。どのチームも素晴らしい発表でした。

最終日の朝は、16年間の**思い出スライドショー**で今までのあそびじゅつを振り返りました。小さかった子がだんだん大きくなって大人になる様子が見れて笑ったり、懐かしいエピソードに涙が止まらなくなる参加者が続出。リーダー達も、涙ながらに自分たちの想いを伝えてくれました。

午後は、**小樽**のまちを探検。小樽はまち全体が博物館！小樽ガラスやキャンドルなど、楽しい雑貨やレトロでおしゃれなお店がいっぱいありました。

空港でおみやげを買った後は、涙のお別れタイム。初対面だった人たちも、あそびじゅつを通して本当の家族のように仲良くなりました。我々スタッフにとっても、参加者のみなさんと過ごした時間は宝物です。**16年間、本当にありがとうございました！**

また、8月にはあそびじゅつin沖縄ファイナルがあります。北海道に参加できなかった方も、これで本当に最後のあそびじゅつなので、ぜひ一緒に遊びましょう！もちろん初参加の方も大歓迎です！

●あそびじゅつin沖縄ファイナル
8月9日（木）～12日（日）

涙ながらに想いを伝えるリーダー達

空港で涙のお別れ

小樽はまち全体が博物館

大爆笑のスタンツ大会

バナナボートで出発！

本当のクラスメイトのように仲良くなりました

2018年1月20日（土）、21日（日）

加美町住民ミュージカル　うきうきするね。

加美町・やくらい文化センター

加美町の住民ミュージカル**「うきうきするね。」**。4歳から54歳までの**39名**が出演しました。

架空の学校「やくらい小学校」を舞台に、突然現れた二ホンザルの子どもたちと、人間の子どもたちが心を通わせていくストーリー。

加美町の子どもたちは、とってもパワフル！もともとはそれぞれ別の学校に通っている子どもたちですが、半年間の稽古を重ねるうちに、あっという間に仲良しに。休憩時間に遊んでいるときのはしゃぎっぷりは、まるで**本当のクラスメイトのよう**でした。

たびたび**新聞やテレビの取材**もあり、自分たちの歌やダンスをアピールしようと燃える子どもたち。楽しみながら切磋琢磨して、どんどんセリフやダンスを覚えていきました。

本番当日は心配されていた雪も降らず、**2日間とも満席**で**計831名**の方々にお越しいただきました。笑いあり涙ありのミュージカルでした。

1月27日付　大崎タイムスより抜粋

～加美町住民ミュージカル「うきうきするね」～

出演者の"成長物語"結実

2公演とも満席　観客魅了

加美町の住民参加型ミュージカルが20、21の両日、同町やくらい文化センターで上演された。約400人収容可能な会場は2公演とも満席。大勢の観客を前に、小学生ら出演者39人が半年間に及ぶ稽古の集大成を披露した。

タイトルは「うきうきするね」。大自然に囲まれた架空の小学校に突如サルの集団が現れた―。という奇想天外な舞台設定で、人間の子どもたちとサルが大人による差別や偏見に負けず、人と動物を超えた友情をはぐくんでいく笑いあり、涙ありのストーリー。オリジナル作品らしく、地名や風土を現す言葉など台本のいたるところに加美町らしさをちりばめた。

初日の幕が開けるまでの過程は、公募とオーディションを経て選ばれた出演者一人一人の"成長物語"でもあった。大半は普段それぞれ別の学校に通う小学生。昨年6月の初顔合わせで「歌もダンスも初めて」「舞台に立ってみたくて応募したけど、実は人付き合いが苦手」と漏らす子もいたが、切磋琢磨で演

2年ぶりの住民ミュージカル。出演者39人が稽古の成果を披露

重なり合う手に人間とサルの絆がにじむ

感動のフィナーレ